令和2年度 学校評価表

学校番号	18	学校名	長野工業高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標	自らの人生と新たな社会の創造に誠実に努力する人を育てる。		
学校重点目標	【高校生の人格を磨き、可能性を最大限伸ばさせるために、次の目標を推進する】 ○普通科と専門科の両方の学力を伸長する。 ○5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を軸に、基本的生活習慣や礼節を養う。 ○生徒個々の可能性や能力を最大限伸ばし、自己表現をサポートする。 ○いじめや体罰を許さない安全安心な学校づくりを推進する。		
評価基準：A 十分満足している B 満足している C 不満足である			

評価対象	評価項目	評価の観点	評価	成果や次年度への課題（概要）
学習指導	教育課程	・生徒の可能性を広げるために、選択科目の精選と適正な配置を図る。 ・生徒の学力向上を目指し、具体的な授業展開および授業内容・授業評価を研究し改善を図る。 ・新高等学校学習指導要領改訂に伴う新たな教育課程編成について検討する。	B	・次年度から3年の選択科目が増え、生徒の進路選択の幅が大きくなる教育課程ができた。 ・研究は十分にすることができなかったが、コロナ禍での授業への対応を各教科の先生方が行ってくれた。 ・これからは、リモート授業の対応が必要になる。 ・新教育課程の変更および、評価の観点の変更、への対応が必要になる。
	学習指導	・基礎学力診断テストや定期テスト結果を分析することで学力実態を的確に把握し、基礎学力の着実な定着を図るための対策を講じる。 ・授業評価アンケートにより、わかる授業を展開するための授業改善を図る。 ・ICTを活用した授業改善を積極的に実施する。 ・公開授業や研究授業の実施により教員相互の研修を深め、教員の指導力向上を図る。	B	・公開授業は5月30日(土)、6月15日(月)に予定していたが、コロナ感染症防止のために、9月11日(金)に延期し、中学生および保護者、在校生(1年生)の保護者のみに制限して実施した。今後も感染予防対策をしつつ実施したい。 ・基礎学力診断テストもコロナによる休校の影響で4月のみの実施となってしまったが、事後の分析を学年会や職員会で共有することができた。 ・生徒による授業評価アンケートを実施し、わかる授業のための授業改善を促すことができた。 ・コロナによる臨時休業では課題の郵送、遠隔システム「ロイノート」、動画配信を利用して生徒の学びの保障に努めた。学校の環境整備が進むにつれさらにICT機器の活用が必要である。また各家庭において環境の差があるので、アンケート結果などをふまえて進めたい。
	キャリア教育	・地域の企業と連携し、インターンシップ(就業体験)を推進することで職業観を育成するとともに、キャリア教育のより一層の充実を図る。そして、地域を担い世界に貢献できる人材の育成に努める。 ・産業界、支援機関との懇談の機会を増やし、連携の強化を図る。 ・高大連携をさらに推進し、先端技術の理解と学びの姿勢の向上、プレゼンテーション力のスキルアップを図る。 ・コミュニケーション能力や情報活用能力の育成を図る。	B	・インターンシップにおいては、コロナ禍の影響で実施が心配されたが、地域企業の協力で規模を縮小したうえで実施することができた。参加生徒123人、企業のべ50社に協力を頂いた。しかし、インターンシップ報告会を計画していたが行うことができず残念であった。 ・信州大学工学部との「高校生研究室体験プロジェクト」に機械科、電気科、情報技術科、工業化学科、土木科、建築科の生徒16人が参加し、各科が連携する学科の研究に取り組んだ。また、諏訪東京理科大学との連携では、電気科、情報技術科の生徒たち9名が研究に取り組んだ。いずれも最先端の研究に参加できる機会が得られた。
	資格検定等	・各種コンテスト・資格取得・技能検定に積極的に取り組めるよう、案内や指導助言の充実を図る。	B	・専門性を生かした資格取得、技能検定などの生徒の取り組みを進めた。コロナ禍により試験・講習会が中止となる状況のなか、できる限りの開催努力を行った。
進路指導	進路実現	・生徒・保護者の要望に即した進路情報を提供し、生徒本人の目標・能力・適性に合った進路実現がかなえられるよう指導・助言を行う。	B	・進路指導については、コロナ禍の影響でほぼすべての予定の変更を余儀なくされ、十分な情報提供と指導・助言を行えたとは言えず、課題も多かった。しかしながら、可能な範囲内での達成度は決して低くなかった。
		・オープンキャンパス、インターンシップ等の校内では得られない体験を通じて職業観や将来の生き方を考えさせる。	B	・上述したおりの現状であり、外部との連携が極めて困難である中、できる限りの調整を行った。本年度のような状況下における新たな対応策の構築が今後の課題である。
		・生徒の進路実現のために系統的な指導を充実させるとともに、就職先・進学先の情報収集や研究、開拓等を行う。	B	・本年度から大きく傾向が変わった進学指導においては、四年制大学への入試対策が急務である。 ・今年度は、普通教科はじめ各専門科の支援により、生徒たちの進路希望がほぼ達成できた。
生徒会	班・同好会活動の充実	・コロナ禍において大会コンクール等が中止や延期となっている現状ではあるが、生徒達が意欲を持って取り組めるよう、班・同好会の活動を支援する。	B	・大きな大会やコンクールなどが中止や代替による小規模なものとなるなど、特に卒業学年の生徒達は十分に実力を発揮する場が減ってしまい、気の毒な1年間になってしまった。しかしながら、日常の活動においては、毎日の健康観察や消毒などの感染予防をしながら、各班ともに地道に活動を進めている。
	自主活動への支援	・地域連携を生徒会活動のひとつの柱として据え、生徒が企画から関わり、運営にも主体的に取り組むことで、自治の精神と自主性を育む。	B	・新型コロナウイルスの感染拡大防止により、予定していた地域との連携活動がほとんどが中止となった。 ・最大の行事である「長工祭」は一般公開は行わず、校内祭として開催した。密を避ける企画のアイデアなどを時間をかけて話し合い、例年と大きく異なる内容で展開したが、生徒会執行部を中心に、よい取り組みができた。
清美	清掃美化活動	・清掃活動が円滑に行えるよう清掃用具の充実等に努めるとともに、校内美化について意識の向上を図る。 ・ゴミの分別と減量ならびに資源化について取り組む。	B	・年度初めは新型コロナウイルスの対応(清掃時の消毒)に追われた。日々変わる対応方針に戸惑いながらも一定の対処はできた。 ・床拭き用レンタルモップの交換サイクルについて一定のルーチン化が図れた。 ・ゴミ出しについては例年通り取り組めたが、校内美化の意識づけについてはあまり取り組めなかった。
生徒指導	安全安心な学校	・校内情報の共有化により、職員一致による協力体制を図り、安全・安心な学校作りを行う。	B	・全職員のそれぞれの立場での協力が得られた。次年度も恒常的に取り組んでいきたい。
	基本的な生活習慣	・頭髪等の身だしなみをはじめ、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)や挨拶を励行すること、時間を守ること等の指導を通して、常識ある行動ならびに社会で通用する基本的な生活習慣とマナーの確立を図る。 ・地域に信頼され、評価される長工生を目指す。	B	・担任を始め、全職員で遅刻の軽減を目標に取り組んできたことが功を奏し、例年に比べ、朝の遅刻がだいぶ減少した。 ・問題行動件数も、昨年度より減り、全体的に落ち着きがかもし出されている。 ・求年度は、登下校の自転車運転マナー遵守を更に徹底したい。
開かれた学校づくり	公開授業等	・公開授業や研究授業を実施し、地域や保護者の声に耳を傾けながら、授業改善や教員の指導力向上を図る。	B	・各教科がICT機器の活用方法を外部の支援員と共に研修を行い、授業内容の向上に取り組む事ができた。 ・ICT教材を活用したリモート授業に取り組むことができた。 ・公開授業では、中学生を含め多くの方々に参観頂いた。
	広報活動の充実	・本校の教育活動を広く理解してもらえよう、学校案内・HPを充実させ、活気ある学校をアピールする。 ・報道機関への情報提供を積極的に行い、各種メディアを利用して活動情報の発信を図る。	B	・HP及びパンフレットの充実にも努め、広報活動に役立った。 ・視覚的にアピールすることが出来るWEBサイトを作ることができた。 ・年間を通して新しい情報を各職員からアップできるよう工夫をした。 ・外部連携事業等についてはマスコミ各社に取材依頼を行い、新聞等を通して情報を発信することができた。
	PTA活動	・諸々の課題を保護者・職員で共有すると共に、高校生生活が有意義になるよう連絡を密にする。 ・家庭との連絡を密にするためのメール連絡網については、会員のシステム登録者数を増やすことで実効性を高める。	B	・メール連絡網の登録率が96.2%に達している。 ・コロナ禍の影響でPTA関連の行事はほぼ中止となったが、連絡網の活用により迅速な学校保護者間の連絡体制がとれている。登録率のより一層の増を図りたい。
	生徒募集	・本校の魅力を伝えるため、中学校訪問や進学説明会等の企画および内容について一層の充実を図る。 ・中学生や保護者が本校の教育内容に興味・関心を持ち、本校受検につながるような情報発信を工夫する。特に、ホームページ掲載情報の更新・充実を進める。	B	・コロナ禍であったため、中学3年生保護者説明会を中止した。しかし、学校説明会、体験入学は予定通り実施できた。 ・第1期中学校訪問(7月から9月)では、中学校への進路講話や各専門科の生徒が中学校へ向う本校のPRを行うことができた。また、第2期中学校訪問(10月から11月)も積極的に訪問した。 ・ホームページ掲載では授業の様子や班活動の結果など最新情報の更新に努めた。